

2025 年 12 月 28 日（日）第二礼拝「心を尽くす祈り」エレミヤ 29 章 13～14 節

祈りとは、神様と親密な関係になることです。心を尽くして主を求めるなら、主も私たちにご自身を表してください。私たちが自分の罪や心の動機などすべてを主に言い表すなら、主もご自身の秘密を教えてください、私たちが失ったものさえも回復してください。

第一番目、一つの心です。イスラエルは神様を愛すると言いながら偶像崇拝をしていたため、二心でした。そのため、彼らは全世界に散らされましたが、散らされた所で再び心一つにし、主だけを求めたので、七十年後、イスラエルに帰ることができました。イエス様は私たちの代わりにいばらの冠を受け、両手両足に釘を打たれ、十字架で血を流されるほど、私たちに真実を尽くされました。その真実な神様の願いは、私たちが一つの心になることです。つまり、心を尽くし、力を尽くし、精神を尽くして神様を愛することを願われています。

第二番目、霊の祈りと知性の祈りです。御霊によって異言で祈る時、奇蹟や癒しが起こり、預言や証など、あらゆる祝福が溢れますが、その祈りの内容は私たちにはよく分かりません。しかし、聖霊様はこのような私たちのために深いうめきをもってとりなしておられます。異言で祈りながらも、私たちに愛がないこともあります(Ⅰコリント 13:1)。また、異言の祈りで私たちの霊は祈りますが、知性は実を結びません(Ⅰコリント 14:14～15)。ですから、パウロは霊においても祈り、知性においても祈るようにと勧めています。父なる神様は私たちの知性の祈りを聞きたいと願われています。それは神様との親密な関係を築くものです。

第三番目、知性の祈りは三つの祈りに集約されます。神様が私たちに願われている祈りは、イエス様が主の祈りで要約して教えておられます。「天にまします我らの父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。御心になりますように。」は、主を愛する祈りです。父は私たちの代わりに御子イエス様を十字架につけることを許され、イエス様はほふられた小羊となりました。それを通して、私たちは神様の愛を知りました。その愛に応答して、私たちもまた心を尽くして神様を愛するのです。次に「日用の糧を与えてください。」は、主に感謝する祈りです。多くの人は感謝を失っています。私たちは今あるもので満足できず、無いものに目が向きやすいです。それが不平不満の原因です。しかし、主はすべてのことに感謝するようと言われています。感謝するなら、神様がすべてを働かせて益としてくださること、また、未来の可能性に目を向けることができるのです。次に「人を赦します。試みに遭わせず、悪よりお救いください。」は、主の御手に委ねる祈りです。神様は御子をさえ惜しまずに私たちに与えられました。ですから、そのような神様に安心してすべてを委ねることができるのです。人々は他人やお金や自分の能力に頼り、将来に対する不安、恐れを抱いています。しかし、主に頼るなら、恐れや不安は確信に、混乱は秩序になります。「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言 3:5～6) 日々、心を尽くして祈り、主を愛し、主に感謝し、すべてを委ね、主との親密な関係を築いていきましょう。